

## シカネット設置後の効果検証及び被害の傾向と対策について

九州森林管理局 森林技術・支援センター

森林技術専門官 梶丸 正幸

森林技術普及専門官 池水 寛治

### 1 課題を取り上げた背景

主伐・再造林を効果的かつ効率的に進めるためには、地拵えから下刈までの造林コストの低減が喫緊の課題となる中、造林コストの上昇の一因がシカ被害対策コストでもあることから、当センターでは、防護ネットやツリーシェルターの設置に係るコストの検証と設置後の防護効果、ネット等の各種保護資材の破損原因調査に基づく維持管理手法について報告します。

### 2 取組の経過

平成27年12月から平成28年2月にかけて、熊本署、熊本南部署、西都児湯署において設置した、7種類の保護資材の設置コストの検証と設置後の効果及び破損状況の把握を行いました。

垂直張り 1.8m

垂直張り 2.4m

斜め張り 2.4m



寝かせ張り 2.4m



ツリーシェルター



※ 垂直張り(1.8m)と斜め張り(2.4m)では人工支柱に代わり立木を活用した場合も検証しました。

### 3 実行結果

各種保護資材の設置コストの検証については、図-1の結果となりました。(＃1：2,000本/ha植栽、＃2：1,500本/ha植栽)

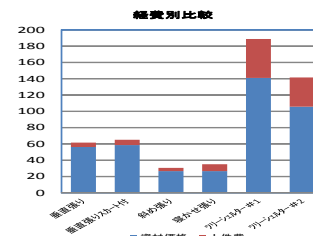


図-1

ネット設置後の破損状況等については、シカ等のネット内への侵入が設置1ヶ月後頃(下層植生が発生)から始まり、また、裸地化した造林地の斜面下方や、搬出作業で利用した森林作業道から降雨により枝条や土砂等の堆積がありました。



ネットへの侵入口



枝条・土砂の堆積

### 4 考察

各種保護資材の設置コストは、コスト面だけでは斜め張りや寝かせ張りが優位となりましたが、斜め張りは野兎等によるナイロンネットの破損、寝かせ張りは枝条の腐朽によりネットが沈下し獣害の侵入リスクが高く、総合的に判断すると垂直張り(2.4m)が効果的と思われます。

また、資材費が高いツリーシェルターについては、下刈の省略や低密度植栽によるコストの削減が図られる事も考慮し総合的な判断が重要と考えます。

ネット設置後の防護効果を高める上で、定期的(1ヶ月程度)な巡視による維持管理が重要であり、巡視の際に発見した侵入口を石や木材で塞ぐ簡単な作業でも、侵入防止効果は非常に高い事が解りました。

最後に、シカを防御だけでなく個体数を調整していくことも重要なため、当センターではツリーシェルター設置箇所での誘鹿剤を活用した効率的なシカ捕獲手法の可能性についても検証中です。